

開業医と医師会会長としてのプロフェッショナリズム

インタビュー：小森貴先生（小森耳鼻咽喉科医院 院長）

7班

岩田一夢 上滝悠聖 小林裕理 清水敬仁 浜野雄太 蜂須賀大貴 宮田茉歩 吉本舜

目的

・開業医・医師会会長としてしてきた仕事についてのインタビューを通し、医師のプロフェッショナリズムとはどのようなもので、どのように実践されるのか考える。

・医学生へのメッセージを伺う。

※スライド内では「新ミレ：（項目）」の形で、「新ミレニアムにおける医のプロフェッショナリズム：医師志章」でとりあげられたプロフェッショナリズムのうちどれが実践されているか紹介する。

1.小森先生のご略歴

1979年 金沢大学医学部医学科卒業

金大病院耳鼻咽喉科入局

1989年 小森耳鼻咽喉科医院開業

2006年 石川県医師会会長就任

2012年 日本医師会常任理事就任

医師会では「メディバタ会議」の開催、能登半島地震・東日本大震災の際災害医療チームの連携を強化

ほか校医・厚労省の委員会など多数

参考・引用：[臨床プロフィール 小森耳鼻咽喉科医院](#)
院長 石川誠正前会長就任 朝日新聞 小森氏 小森耳鼻咽喉科
[fatermed.jp](#)

[現在のお仕事内容]

・小森耳鼻咽喉科医院院長
(診療・手術・休日当番など)



2.開業医としてのプロフェッショナリズム

(1)チャレンジ精神と向上心を大切に

耳の手術の実践のため、30代前半でアメリカ留学。

小森先生が対応したい手術は日本では稀だった。

(日:20~30件/年 米:10件/日)

その他、石川から東京まで勉強に行くなど

→新ミレ：プロフェッショナルとしての能力に関する責務



(2)医療へのアクセスの充実

ホームページでWEB予約・問診システムを導入。

また、70歳以上の方、石川県外・珠洲市・能登町・輪島市の受付も

→新ミレ：医療へのアクセスを向上させる責務

(3)手術室や入院室の設置(2F)

自分が学んできた、耳の手術に関することをしなかったため。開業医としては異例。

→新ミレ：医療の質を向上させる責務

画像引用元：[医院紹介 小森耳鼻咽喉科](#) 2008-2013
Best Doctor (Copyright)

3.医師会としてのプロフェッショナリズム

(1)国民・県民の意見を聞く

大切にしていることであり、やりがい。

医療ミスなどがあつた際、医師が不信感を持たれることがある。

そこで、医師本来の姿を見せ、意見を聞き、信用を回復させることが大事であり、信念。

→新ミレ：患者に対して正直である責務

(2)団体だからこそできることを

医師会は個人で解決することが難しい問題を、団体として解決することを目的に発足された。

医師と県民の間に壁があつては、病気から助けることにも支障が生じる。

県民と団結し、団体として問題を解決していく姿勢を大事にしようとしている。

→新ミレ：利害衝突に適切に対処して信頼を維持する義務

4.医学生へのメッセージ

学生時代にやるべきだと思うこと：専門以外のことも学ぶこと！

基本や哲学的なこともしっかり学び、人間性のある医師になってほしい。

友達・部活・読書などを通じ、医学だけではなく、さすがだなと思ってもらえるような人間になってもらいたい。

医師は偉いわけではないので、そのような点で理想像となってほしい。



5. 考察・まとめ

・患者さんの利益を最優先に考えていることがよくわかった。そうした姿勢は、学生時代にいろいろ経験・勉強をし、いろいろな人間と関わることで培われていったのではないかと考えられる。そのような学生生活を送りたいと感じた。

・また、自分の成長が患者さんにとっての安心に直接結びついていていいと思った。(例：耳の手術について) 普段からも、興味があることをどのように役立てられるか、周りのためになるか考えることが大切だと考察する。

・臨床だけではなく医師会のような公職の立場からでも、患者さんのためにできることはあることが分かった。自分がやりたいことは変わっていくので、学生である今のうちから広い視野を持ってたくさんの情報を集めることが将来のために大切だと考えられる。

参考・謝辞

参考：[小森耳鼻咽喉科医院 \(komori.or.jp\)](http://komori.or.jp)

[小森耳鼻咽喉科医院 Komori ENT Clinic - ホーム | Facebook](#)

謝辞：インタビューにあたり、ご協力いただいた小森貴先生に深くお礼を申し上げます。